

孫たちと爺々のオリエンテーリング

NO. 35

東野基生(中2)、渡辺 幸(中2)、綺羅(小2)、来生(幼)、武石美桜(小3)、沙綾(小2)、武石雄市(M70)

むつ市から爺々の弟子入、孫娘達は従兄弟と合流、ゆき兄々に負けるな！！

孫たちは京葉大会を見た。オリエンテーリングとは走ることだ！

孫育て第2シリーズは世代が変わって始まった。爺々のモットーは野生的文化人の育成？

爺々の車は良く走る

チリリーン・・・チリリーン

美桜「じいじい、春休みに山形に行きたいから迎えに来て！」

爺々「??美桜か?」「わかった 26日に行くから、持ってくるものを準備してなさい」

美桜「やったー！！沙綾と二人だよ」

美桜と沙綾は内孫だが親(長男)の仕事で青森県下北半島のむつ市にいる。年に数回、遊びには来るが親と離れて爺々と遊んだことはない。勿論オリエンテーリングも知らない。

今回、父親に山形に行きたいので連れて行ってとせがんだが仕事でだめ、母親も2歳と生後5ヶ月の弟たちの世話で一緒に行くことはためらった。忙しい爺々なのでだめはもともとで美桜が電話してきたのだった。

爺々も、これまで遊びに来るたびに親たちの躰教育が放漫なことが気になっていたのいいチャンスだと感じた。善は急げとばかり、往復940kmを18時間のとんぼ返りで孫二人をさらって来た。



左から美桜、綺羅、沙綾、来生



ウォーミングアップはキッズ0

活動拠点の確保

孫たちを京葉クラブ山武二日間大会に連れて行くことにした。

宿舎を九十九里浜白子ユースホステルに決めて、一行は合計7人、爺々の車に乗り込みから修行は始まった。

東北道-常磐道-東関東道と長い道中なので退屈のはず、いつもは許していない車内でのゲームも大目に見たり、遊び場があるSAでは長く休憩したり、成田空港の展望台で飛行機の離発着を見たりして退屈をしのぐ工夫をした。

白子YHでペアレントに挨拶し二日連泊のチェックイン。部屋は女の子もいるが祖父と一緒になので離れの一室に7人が同居することになった。

YHが初めての美桜と沙綾の姉妹には、利用上の規則やマナーを社会(共同)生活の常識として教えるなければならない。しかし、まだまだ共同生活体験が乏しい二人には、食事のことや布団の上げ下げ等なかなか大変なことだったがオリエンテーリングをすることの魅力で追従できた。



全員で朝の散歩

一日目の蓮沼南浜

爺々「6時だー！全員起床！」

皆黙々と起き、着替えて散歩に出る。綺羅「じいじい、ゆうべおじさんたちが魚を取っていたところが水浸しだよ」

来生「ほんとだ、ぼくが歩いたところも水がいっぱいだよ」

昨夜、シラスウナギをライトでおびき寄せて掬っていた場所が満潮で潮位が上昇していた。

爺々「満ち潮になったので海の水があがってきたんだよ」



オリエンテーリング会場に着いた。

爺々「幸と基生君は公式掲示板を読んで自分たちのスタート時間に合わせて行動しなさい」

幸・基生「わかった」

爺々「グループ分けは綺羅と来生が一緒に、美桜と沙綾と爺々が一緒になるのか」

来生「ぼくも爺々と一緒にいいな」

綺羅「ぼくも爺々と同じになりたい」

爺々「しょうがないな、それでは約束しよう。美桜と沙綾はオリエンテーリングが初めてなので、綺羅と来生は二人の面倒を見ること、沙綾はみんなから遅れないようにがんばること」

一同「はい、早く行こうよ！！」

爺々「本当のオリエンテーリングは午後だから、その前にキッズ-0で練習しようよ」

来生「こっちにテープがあるよ。ポストでシールを貼るんだよね」

綺羅「らいき！そっちにテープがないよ！一人で先に行ったら迷子になっちゃうよ」

美桜「テープがなくなっちゃったね」

綺羅「あったー、こっちだー」

沙綾「待ってー 走れないよー」



来生「沙綾がいらない、沙綾迷子になるよ。爺々沙綾探してきてー」

まもなく、泣きながら土手を上がってくる沙綾を見つけた。

爺々「沙綾、迷子になっちゃったでしょ、がんばってみんなと一緒に行かないと」

沙綾「草が痛くて、手を上に挙げて歩いたら地図が飛んじゃって、地図探しているうちにみんないなくなるんだもん」

爺々「そうか、茨は痛かったよな」「ほら、後一個でゴールだよ、みんな待ってるよ」

爺々の感想：キッズ0にしては目線の低い幼児には、テープの位置が高い箇所や背丈の高い草で子供は通り抜けを躊躇するような場所もあり、幼児や低学年には難しいと感じました。だからこそか、子供たちはゴールでメダルと参加賞をもらい完走に満足していました。難しいキッズ0を体験したので、午後のOGコースは難なく終わった。



さんぶの森・京葉二日目

今朝も6時に起きて食事前の1時間、白戸海岸で遊んだ。波の満ち干きを追っかけて楽しんでた来生は、引き波に足を取られて転倒し、全身ずぶぬれになった。



ズボンだけ脱いで宿まで歩いた来生

二日目もキッズ0に出ようと思ったが、時間の余裕がなかった。

グループもスタート位置まで15分歩き、距離も3.4kmある。

来生「テープの中に入れていよう」

スタート枠が狭くてグループ5人は枠からはみ出した。コースは結果的に半分が舗装道路、コントロールも道路上にあり元気の良い者はただ前進あるのみで走っちゃう。歩くのが精一杯の沙綾は森の道に入っても前に追いつかない。

沙綾「爺々、疲れたよー、のどがかわいたよー」

と、泣き言・・・

そこに、上林弘敏カメラマンがカメラを向けて

「あの子も一緒にグループかな？」

それを聞いた沙綾は元気良く走った。



現金な沙綾

二泊三日の修行が終わった。

(武石雄市)